



シクラメン発祥の地—恵那市

冬の代表的な花—シクラメン。しなやかに伸びた花茎、チョウが舞い降りたような花は、花びらが上に反り返ることから和名、カガリビバナ(篝火花)とも呼ばれます。今から約90年前、この愛らしい花に一生をかけた人物がいました。恵那シクラメンの生みの親、伊藤孝重さんでした。

伊藤さんは、明治29年、東野の養蚕農家に生まれ、上田蚕糸専門学校(現信州大繊維学部)の修学旅行中に出会ったシクラメンに魅せられ、当時大井ダムの建設に携わるアメリカ人技師の奥さん(ドイツ人)の勧めで栽培の道に。日本での栽培は大変珍しかった時代に独学で取り組み、昭和初期に成功させました。その後、自ら販路を拡大し、恵那を全国に誇るシクラメン産地に育てました。

シクラメンは、JR恵那駅前のシクラメンまつり(今年は11月25日に開催)をはじめ、商店街の活性化やまちづくりに一役かかっています。またポネットバス・トコトコぼんちゃんのコースにも組み入れられています。

(参考 恵那市市制45周年記念市勢要覧「響」)

□問い合わせ 商工観光課 26-2
111 内線 532・533